

シネラ

シネラ・ニュース
July.2000 No.48

特集 ア・ニ・ユ・エ・ア



本当の悪女というよりは、悪女にちょっと
憧れを持つ予備軍っぽいところがかわいい。
『悪女列傳』 イラスト&文:山下良平

5日(水)14:00 12日(水)19:00 15日(土)15:00

ミステリー・オブ・ザ・キューブ The Mystery of the Cube

1999年/35ミリ/カラー/105分/韓国
日本語・英語字幕付き
監督:ジョナサン・ユー 出演:イ・ミヌ



植民地時代の天才詩人イ・サンを巡って、インターネットで出会った5人の仲間がクラブを結成し、イ・サンに関する小説を書き始める。ところが仲間は次々と謎の死を遂げていく。イ・サンの残した謎の詩を手がかりに、残された二人の仲間は殺人者に迫っていく。そして二人は国立博物館の地下に植民地時代の秘密のトンネルを発見する。怪奇ミステリー。

10日(月)14:00 14日(金)19:00 16日(日)15:00

ザ・コンタクト The Contact

1997年/35ミリ/カラー/106分/韓国
日本語・英語字幕付き
監督:チャン・ユンヒョン 出演:ハン・ソッキュ



ラジオ番組のプロデューサー、ドンヒョンと電話のセールスの仕事をするスヒョン。お互い見知らぬ二人が、ラジオ番組でかかった音楽がもとでパソコン通信の会話を交わすようになる。そして仕事の人間関係に嫌気がさしたドンヒョンは、オーストラリアに移住をきめる。スヒョンはドンヒョンに会おうとする。都会の孤独な恋人達を感傷的に描き大ヒットした作品。

10日(月)19:00 12日(水)14:00 16日(日)11:00

8月のクリスマス Christmas in August

1998年/35ミリ/カラー/97分/韓国
日本語・英語字幕付き
監督:ホ・ジン 出演:ハン・ソッキュ



ソウルの片隅で写真館を経営するジョンウォンは、ある日交通課に勤務する婦人警官のタリムと知り合う。次第に親しくなっていくジョンウォンとタリムだが、ジョンウォンには病気があり、彼の命は長くないのだった。優しく穏やかなジョンウォンと、最後まで彼の病気を知らないタリム。二人のやるせない恋が、静かで寡黙な映像で語られる。新しい韓国映画として世界中で絶賛された傑作。

6日(木)14:00 13日(木)19:00 20日(木・祝)11:00

悪女列傳 Bad Girl Trilogy

1998年/35ミリ/カラー/114分/台湾
日本語・英語字幕付き
監督:ウェン・ヤオティン、リン・ゼンジエ、チャン・インユウ



三人の若い監督達が「悪女」というテーマで自ら脚本を執筆し、オムニバス映画として完成させた作品。三人の監督達はいずれも本作が長編映画のデビューであり、みずみずしい感性が画面から溢れている。主人公になるのは自分で物を考える独立心旺盛なかわいい「悪女」達。台北に住むキュートでデリケートな彼女達もまた魅力的である。

11日(火)19:00 21日(金)14:00 23日(日)11:00

誓いの炎 With Fire As Witness

1998年/35ミリ/カラー/111分/インド(マラーラム語)
日本語・英語字幕付き
監督:シャーマブラサード 出演:ラジット・カプール



1930年代、独立の機運高まるインド。タンガムは母親のカーストが低いために差別を受けていた。彼女はカースト制度の差別から逃れるため学問の道を選び、家をでる決心をする。タンガムの従兄弟の妻デーヴァキは伝統と格式にこだわる家族の中で暮らしていた。この作品は二人の女性の友情と人生を軸に、カースト制度やインドの社会について描いた作品である。

21日(金)19:00 29日(土)15:00

クロスファイアー Crossfire

1997年/35ミリ/カラー/155分/インド(ベンガル語)
日本語・英語字幕付き
監督:リトゥボル・ゴーシュ 出演:インドラニ・ハルダール



若い夫婦のロミタとボラーシュは、カルカッタの地下鉄で若い男達に暴行される。それを助けたのは女教師のジヌクであり、ジヌクは一躍有名人になる。しかし周囲の興味本位の視線により、ロミタとジヌクは次第に孤立していく。カルカッタで実際に起こった事件を基にした女性映画であり、監督は本作により、一躍若手の注目株に成長している。

ASIA

5日(水)19:00 13日(木)14:00 15日(土)11:00

マヨネーズ Mayonnaise

1999年/35ミリ/カラー/103分/韓国
日本語・英語字幕付き
監督:ユン・イノ 出演:キム・ヘジャ



アジョンは30代の主婦で、ゴーストライターの仕事をしている。ある日夫が海外出張中、アジョンの母が突然やってくる。考え方が古く、愚痴ばかりこぼしている母はアジョンと喧嘩ばかりしてしまう。お互い文句を言いながらも、いつか二人は心を通わせる。母と娘の世代の違いにより、考え方や家庭のあり方がまったく変わってしまったことが描かれる。

6日(木)19:00 14日(金)14:00 20日(木・祝)15:00

チュンと家族 Ah Chung

1996年/35ミリ/カラー/98分/台湾
日本語・英語字幕付き
監督:チャン・ツォーチー 出演:リウ・シェンチョン



チュンの両親は別居中で、チュンは時々、タクシー運転手の父のところに生活費をもらいにいかなければならない。弟は知的障害があり、姉はやくざと暮らしている。信心深い母はチュンを宗教儀式「八家将」のグループに入れるが、これをきっかけにチュンは暴力の世界に足を踏み入れる。侯孝賢監督「悲情城市」の助監督であるチャン・ツォーチーの監督デビュー作であり、自伝的な作品。

19日(水)14:00 22日(土)11:00 27日(木)19:00

テロリスト The Terrorist

1998年/35ミリ/カラー/100分/インド(タミル語)
日本語・英語字幕付き
監督:サントシュ・シヴァン 出演:アイェーシャ・ダルカル



19才の少女マツリは反政府テロ組織の一員で、毎日厳しい訓練の日々を送っていた。ある日組織から命令が下り、爆弾を体に巻き付け、政府要人を爆殺する任務につく。果たして彼女は、爆弾のスイッチを押すことができるのか。インドで実際に起こったテロ事件を基にしており、息をのむような緊迫感とリアリズムが漂う作品である。

19日(水)19:00 22日(土)15:00 27日(木)14:00

神の戯れ The Play of God

1997年/35ミリ/カラー/128分/インド(マラーラム語)
日本語・英語字幕付き
監督:ジャヤラージ 出演:スレーシュ・ゴービ



シェークスピアの「オセロ」を下敷きにして、南インド・ケーララ州の伝統芸能ティヤムの世界を描いた作品。ティヤムのダンサー、ベルマヤンは領主の娘ターマラと結婚する。しかしティヤムの仲間であるパニヤンは、ベルマヤンにターマラが不貞を働いているという妄想を巧妙に植えつけていく。素晴らしい色彩感覚と音楽、緊迫感溢れる演技が素晴らしい。

26日(水)14:00 29日(土)11:00

城 壁 Walls Within

1997年/35ミリ/カラー/85分/スリランカ
日本語・英語字幕付き
監督:ブラサンナ・ヴィターナゲー 出演:トニー・ラナシンハ



夫と別居状態のヴァイオレットは二人の娘と平和な生活だった。そんなある日、昔の恋人ヴィクターが25年ぶりに町にやってくる。ヴィクターは足を痛めており、ヴァイオレットはヴィクターの世話をするうちに、昔の感情がよみがえるのを感じるのだった。セリフでの説明を廃し、静的な映像でヴァイオレットの苦悩が描かれる。スリランカの新興、ヴィターナゲー監督の傑作。

New Wave

韓国・インドなど若い才能を輩出するアジア映画の若手監督を特集。

特集

アジア・ニューウェーブ

会 期：5日(水)～29日(土) ※休館日・休映日を除く

観覧料：500円(大人) 400円(大学生・高校生) 300円(中学生・小学生)

※定員制、各回入替制。 ※チケットはすべて当日券です。前売り券はありません。

※福岡市在住の障害者の方は無料。福岡市在住の65才以上の方は半額。(手帳の提示が必要です。)

ジャーナリスティックにニューウェーブという言葉をつかうのはできるだけ避けるべきだろうが、30代～40代の若い監督がまとまって登場する状況は、ニューウェーブと呼びたくなる衝動を十分にはらんでいる。

特に韓国映画の現状についてはそうだ。「シュリ」のヒットが記憶に新しいところだが、それ以前にも「八月のクリスマス」が劇場公開され、その地味な内容にも関わらず多くの観客に支持されている。近年アジアフォーカス・福岡映画祭で上映された作品からも、かつての韓国映画の味わいとはまったく異なった作品が生まれていることを理解できる。そのほとんどが若手監督によるもので、この現象が韓国の経済危機をきっかけにしたものであることは注目に値する。彼らの中から国際的に通用する監督が果たして登場するのか、しばらく韓国映画からは目を離せない。

経済危機をバネにして発展する韓国映画と違い、経済的安定を基盤として若手監督が登場しているのがインド映画である。膨大な年間製作本数を誇るインドだが、芸術的な作品のマーケットは以外に小さなものだ。外国資本との連携や、外国配給を目指して、かつてのような娯楽作品なみの長編から、手頃な長さのレベルの高い作品への指向が見られるのが近年のインド映画だ。サタジット・レイのような監督がいつか登場する、最近のインドにはそんな期待を抱かずにおれないものがある。

その他のアジアの国でも、着実に若い才能が育っている。台湾のチャン・ツォーチー監督は「暗黒の光」で昨年東京国際映画祭グランプリを獲得している。スリランカのプラサンナ・ヴィターナゲー監督もトルコのレイス・チェリッキ監督もいつ脚光を浴びてもおかしくない実力の持ち主だ。中には映画製作自体が困難な国もあるが、そういった状況でも花開く才能を我々は常に注視する必要がある。今回特集する作品はここ2～3年に注目を浴びたものばかりであり、80年代のニューウェーブから10数年を経て、また新しい才能が育ちつつあることを実感できるであろう。

11日(火)14:00 23日(日)15:00 28日(金)19:00

グッバイ・トゥモロー

Goodbye Tomorrow

1998年/35ミリ/カラー/115分/トルコ

日本語・英語字幕付き

監督:レイス・チェリッキ 出演:ベルハン・シムシェッキ



70年代、トルコ政府はアメリカと相互条約を結び、ソ連の脅威から逃れようとしていた。この映画はアメリカ支配に異を唱えた学生運動のリーダー、デニズ・ゲズミスの活動を描き、彼の死刑判決に疑問を投げかける。度重なる撮影妨害を乗り越え、10年の歳月をかけて完成した問題作であり、そこにはトルコにおける民主主義とはなにかという監督の疑問が表現されている。

26日(水)19:00 28日(金)14:00

苦難の大地

Dukhai

1997年/35ミリ/カラー/128分/バングラデシュ

日本語・英語字幕付き

監督:モルシェドル・イスラム 出演:ライスル・イスラム・アサード



70年代のバングラデシュ。ドゥカイはサイクロンにより、家族全員を亡くしてしまう。絶望するドゥカイだが、やがて彼は再び結婚し、娘も生まれる。ところが85年、再び巨大なサイクロンがドゥカイの家族を襲い、また彼は家族を失うのだった。実話を基にした物語で、悲惨で悲劇的な物語に無常観を感じずにはいられない。

映写の業務も、時代の変遷に伴い大きく変化してきました。私が映写技術者免許の国家資格を取得したのは昭和32年9月。昭和32年と言えば、日本の映画産業は全盛期。掛ける作品いずれも大入りの状況で、全国の映画館も大変な数に登りました。大入り袋を度々いただいたものでした。

その頃のフィルムには可燃性のプリントがあり、発火することもありました。それで、映写技術者免許証だけでなく消防署発行の危険物取扱者の免許証も携帯していなければ映写業務が行えません。よく、消防署が抜き打ち検査に来ました。

フィルム1巻は8分が主流でした。映写機2台で1巻ずつ交互に写しますが、1台に必ず映写技師が1人張り付いて、フィルムの巻末にあるパンチ(白丸や黒丸)を見落とさないようにして素早く切り換えたものです。切り換え後の上巻済みフィルムは手動のハンドルで巻き取りをしていました。サイズはスタンダード(縦横比率1:1.33)が主でしたが、ワイド画面のシネマスコープ(縦横比率1:2.35)が出現した時には、かなりの迫力を感じたことを今でも鮮明に記憶しています。

光源は現在と異なりカーボンで、発光剤を炭素で包み外側は電流を良く通すため銅で被覆、電流は直流と交流の2方式あり劇場ごとで異なるため注意が必要でした。

映写装置も日進月歩。拡声装置メインアンプが真空管式からトランジスタに変わって以降は、トラブルが発生しても簡単に基盤の取り替えですむようになりました。

「映写業務の変遷」

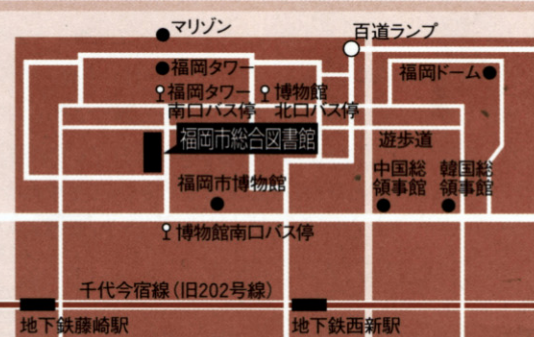
操作も大幅に機械化されました。最近の映画館はノンリワインダーの映写機などが設置されています。1作品1巻で、直径約1m50cmの円板から自動的にフィルムの送り出し、巻き取りを行います。上映開始時間、BGM等をコンピュータ入力しておけば全自動で映写できるので、事務所から画面・音の状態を確認すれば、上映期間中(数週間)をとおして映写室は無人でOKです。映写業務も本当に大きな進化を遂げたものです。

さて、最後に「シネラ」での映写業務を紹介します。映写機はフィルム幅35mm、16mmの兼用型を使用しています。速度も1秒間15駒から30駒の範囲で変換が可能です。現在のフィルムは通常1秒間24駒ですが、サイレント映画などの昔の作品は各々の作品に合わせて1秒間の駒数を変えて上映します。次に、上映の手順です。図書館の収蔵フィルムは室温5度に保った収蔵室に保管されています。温度の急な変化をさけるため室温15度の収蔵室前室で1週間程度寝かせてから上映室に運びます。各巻をチェックの上、フィルム切り換え用の銀箔を貼り付けます。フィルムの準備が完了すると、次は試写です。劇場内での画面・音量レベルのチェックなど、最後まで気が抜けません。

このように上映までには様々な過程がありますが、映写業務の専門家として、また映画を愛する者の一人として、お客様に名画をより良いコンディションで鑑賞いただけるよう、常に正確な上映を心がけています。

映写技師／衛藤元治郎

1 土	自主上映「教えられなかった戦争・沖縄編」	
2 日	自主上映「笛吹若武者」[へらんめえ芸者佐渡へ行く]	
3 月	休 館 日	
4 火	休 映 日	
5 水	14:00 ミステリー・オブ・ザ・キューブ	19:00 マヨネーズ
6 木	14:00 悪女列傳	19:00 チュンと家族
7 金	休 映 日	
8 土	休 館 日	
9 日	休 映 日	
10 月	14:00 ザ・コンタクト	19:00 8月のクリスマス
11 火	14:00 グッバイ・トゥモロー	19:00 誓いの炎
12 水	14:00 8月のクリスマス	19:00 ミステリー・オブ・ザ・キューブ
13 木	14:00 マヨネーズ	19:00 悪女列傳
14 金	14:00 チュンと家族	19:00 ザ・コンタクト
15 土	11:00 マヨネーズ	15:00 ミステリー・オブ・ザ・キューブ
16 日	11:00 8月のクリスマス	15:00 ザ・コンタクト
17 月	休 館 日	
18 火	休 映 日	
19 水	14:00 テロリスト	19:00 神の戯れ
20 木	11:00 悪女列傳	15:00 チュンと家族
21 金	14:00 誓いの炎	19:00 クロスファイアー
22 土	11:00 テロリスト	15:00 神の戯れ
23 日	11:00 誓いの炎	15:00 グッバイ・トゥモロー
24 月	休 館 日	
25 火	休 映 日	
26 水	14:00 城壁	19:00 苦難の大地
27 木	14:00 神の戯れ	19:00 テロリスト
28 金	14:00 苦難の大地	19:00 グッバイ・トゥモロー
29 土	11:00 城壁	15:00 クロスファイアー
30 日	自主上映「男の顔は履歴書」「みな殺しの霊歌」	
31 月	月 末 休 館 日	



交通アクセス：当館の駐車場スペースに限りがありますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。

地下鉄：西新駅または藤崎駅から徒歩15分
西鉄バス：天神→都市高速経由→福岡タワー南口

(所要時間 昼間で約20分)
博多駅→都市高速経由→福岡タワー南口

(所要時間 昼間で約25分)
福岡タワー南口バス停から徒歩3分

いずれも、昼間は10～15分間隔で運行されていますので大変便利です。お近くのバス停からのご利用につきましては、西日本鉄道テレホンセンター(電話 733-3333)に直接お問い合わせください。

編集雑記
前号よりデザインが変わりましたが、巻の評判は？本誌は若い才能により作られています。デザインは某社のデザイナーが持てる才能を絞り出し、イラストは図書館スタッフが特集を見てひねりをきかせています。テレビの似顔絵選手権で準備したほどの腕前と感性の持ち主です。勿論「映画」が主役で、本誌は主役を盛り立てるツールの一つにすぎませんが、映画とともに思い出のページを綴るお役に立てればと願っています。(M)

ギャラリー展示

第4回文書資料新収蔵品展 「郷土福岡の歴史」

平成10年度に新たに、御寄贈、御寄託いただいた文書資料、及び当館が購入した文書資料の中から代表的なものを選んで、第4回文書資料新収蔵品展を開催いたします。

会期：6月29日(木)～8月30日(水)
会場：福岡市総合図書館1階ギャラリー
観覧料：無料

お問い合わせ／福岡市総合図書館文書資料課古文書係

ミニシアター Howards End

1992年／カラー／142分／日本語字幕なし
監督／ジェームス・アイボリー/James Ivory
出演／アンソニー・ホプキンス/Anthony Hopkins
ヴァネッサ・レッドグレイヴ/Vanessa Redgrave
ヘレナ・ボナム・カーター/Helena Bonham-Carter
エマ・トンプソン/Emma Thompson ほか

E.M.フォースターの小説が原作。ロンドンに住む3人兄妹がイワーズエンドを訪れたことから始まり、美しい英国の田舎を背景に様々な人間模様が繰り広げられる。エマ・トンプソンがオスカー受賞。

日時：7月15日(土)14:00～
会場：福岡市総合図書館ミニシアター
観覧料：無料

お問い合わせ／092-752-3750ブリティッシュ・カウンシル福岡

「九州・沖縄サミット福岡蔵相会合」開催に伴う休館について

「九州・沖縄サミット福岡蔵相会合」が福岡市博物館で開催されるのに伴い、福岡市総合図書館本館および福岡市立点字図書館は7月8日(土)を臨時休館日とし、7月10日の月曜休館日を

各団体の自主上映

●7月1日(土)11:00/13:30
「教えられなかった戦争・沖縄編」
(監督：高岩仁)
観覧料／前売：1,500円、当日：1,800円
主催／福岡映画サークル協議会
(Tel. 092-781-2817)

●7月2日(日)10:30/14:30
美空ひばりチャリティ
懐かしの映画会 2本立て
「笛吹若武者」(監督：佐々木康)
「ひばり民謡の嵐シリーズへらんめえ芸者佐渡へ行く」
(監督：渡辺邦男)

観覧料／前売：1,300円、当日：1,500円
主催／美空ひばり後援会九州ブロック
(Tel. 093-293-2415 牛島弘子 午後8時以降)

●7月30日(日)12:00/15:00
加藤泰監督特集
「男の顔は履歴書」「みな殺しの霊歌」
観覧料／1,000円
主催／電ノコニ刀流
(Tel. 092-843-7864 明石誠)
※自主上映の詳細については、直接主催者にお問い合わせ下さい。

シネラNEWS送付のご案内

定期購読ご希望の方に毎月シネラNEWSをお届けしております。購読を希望される方は、平成12年8月号～平成13年3月号までの郵便切手(90円×8月)を同封の上、下記宛先へお申し込みください。
宛先：〒814-0001福岡市早良区百道浜3-7-1
福岡市総合図書館 映像資料課

開館日とします。なお、7月6日、7日は総合図書館周辺道路の混雑が予想されますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。みなさまのご理解とご協力をお願いします。

Fukuoka City Public Library Movie Hall Ciné-là

福岡市総合図書館映像ホール・シネラ

〒814-0001 福岡市早良区百道浜3丁目7番1号

福岡市総合図書館(代表)092(852)0600 映像資料課092(852)0608 Fax.092(852)0609

福岡市総合図書館ホームページアドレス <http://toshokan.city.fukuoka.jp/>